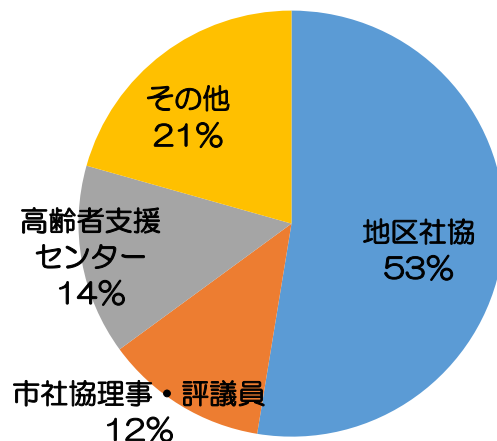


# 研修会「住民だからこそできるこれからの 支えあい活動」 アンケート集計結果

回答者数 97 名 / 参加者数 214 名

## 1. 所属団体

所属団体	人数	割合
地区社協	51 人	52%
市社協理事・評議員	12 人	12%
高齢者支援センター	14 人	14%
その他	20 人	20%
合計	97 人	100%



## 2. 本日の研修はいかがでしたか

### ●講演について

- ・講演はわかりやすく、参考になった。
- ・中村先生の話をもう少し時間をかけて聞きたかった。(同意見多数)
- ・自治会との連携、民生委員とのかかわりなど大変参考になった。
- ・地域における生活支援事業に取り組んでいきたい。
- ・介護保険の改正により、「住民だからできる支えあいって誰が何をどうするの?」という気負いもあったが、今日の話聞いて少し気が楽に考えられるようになったと思う。
- ・介護保険改正で要支援1、2が介護保険の対象から支援事業に移行したとき市町村によってサービスの質・費用の関係を詳しく発表して欲しかった。
- ・地域ケアシステム構築について、具体的な話をもう少し聞きたかった。
- ・タイムリーな内容で参考になった。
- ・介護保険制度の「サービス B」の充実は早急に考えられ、実践が求められている。研修会で地区社協の活動が実践してくることはよく理解できた。
- ・「互助」の強化が必要。地域のことを地域で行えるよう、また、介護予防の観点からも地域の「元気な高齢者」の協力やネットワークづくりが必要だと感じた。
- ・介護保険の下請けでなく、自主的なものとして豊かに発展させてほしい。

### ●活動報告・パネルディスカッションについて

- ・地域福祉への取り組みには地域自身の絆作りと共同組織との連携が大切なことが確認できた。ボランティア活動は参加する人の生涯発見の場所でなければならないと感じた。

- 各地域とともに様々な事情があり、その地域の特徴を生かした活動を伺い、感心したり、納得した。特に藤野の子育ての方達と老人の方達をつないだ活動は素晴らしい。藤野だからこそできたのでは？麻溝の活動ではコーディネーターの役割が大切だな、と思った。みただけでは初めて知った活動で、新しい試みだな、と思った。
- 自分の地域でも参考にして何かアクションをおこせたら良いと思いました。印象に残ったのは「継続できないから始めない。というのは良くない」という言葉。
- 高齢化がますます進み、地域での協力、ボランティアの協力が大事ということが分かった。自分もボランティアとしてやっているの、大変ではあるがやりがいがある。
- 相模原は広いので、いろいろな地域性に合わせて活動にいくしかないのかなあ。
- ボランティアは仕事を持っている。忙しくしている方の参加者が多いです。時間がある方はおしゃべりを良くしますが、ボランティアはやらない。という人が多い。
- 地域特性があり、発表された各地区の事情によって、それぞれ違った形での活動をされている（苦心しながら）ことが良く分かりました。特にボランティアが相談事まで受けている点はちょっと考えさせられた。
- 藤野の「地域全体4世代の大家族」という想いが大切だと思う。小さい単位のまとまり。
- 「みだけ」の事例が興味深かった。サロンの利用者の広げ方、民生委員の活用など。
- 福祉コミュニティ形成事業で見守り活動について検討しているので事例が参考になった。
- 地域に密着した事例の中で、特に藤野の「たまり場」に関心があるので行ってみたい。
- 活動を推進する上での基本情報があり、目安となる心構えが分かり有意義な研修会。三者の活動は今後地区で推進事業の裏付けや参考となり、軌道修正や調整ができそう。
- どの地域もボランティアが多く、どう集めているのか気になった。担い手が集まらず苦労することが多いのと、1人に集中してしまい負担が大きくなることが課題。
- 地域の持ち味、始める事への背中を押してもらえたように思う。ボランティアが重荷にならない工夫が必要だと思った。
- 難しいケースや困ったケースは専門機関に繋ぐことが大切。
- 活動報告は特別珍しい活動はない。もう少し地域の特色を出せたらどうか。例えば山間部であれば、山菜を作ったもの等を活用するなど。気軽に、参考にするために「おしゃべり」という形はかえって遠慮される。
- 隣組お茶のみ会の事例。共助の元は隣組、または近所、世代間を超えた取り組みは後継者づくりにつながり地域の見本になるのでは。
- 地区の話が聞いて良かった。「人の悪口をしない会」、これも良かった。
- 活動報告では運営費等の具体的なことが聞きたかった。
- 藤野の事例は子どもから大人まで対応し、それが良かった。麻溝では養護学校の送迎はないのですごいと思った。横山のサロンとデイサービスが一緒のメリットが良い。
- 何か大きなことをするというより、身近な所でお互いに住みよい誰にでも優しいまちづくりができれば良いと思った。専門職がしっかりしている地域はボランティア活動が活発だという言葉が印象に残った。

- ・世代を越えてつどえる場は良いと思う。出口をつくるというのは安心して手伝うことができる、声かけするときもお願いしやすいのではないかと思います。困ったときは専門家がいて、伝えていきたいと思います。

#### ●その他（研修全体について、要望など）

- ・会場からの質問時間をとって頂くともっと研修の幅がでたと思う。（同意見多数）
- ・支えあいシステムを準備中のため参考になった。
- ・何ができるか考えてみたい。サロン活動のお手伝いできればと思います。
- ・ボランティア活動、サロン活動を担当しているので目新しいと思えなかった。困りごとに対する改善事例等の話も聞けたら良いと思った。
- ・現実的な課題に終始している所は良かった。コーディネーターによるものと思う。単なる自慢話にならなくてよかった。
- ・先進的な活動の話を知り、地域包括ケアを考える上でのヒントになった。「しぼりをとって軽くする」は良いヒントでした。肩の力を抜いて楽しめる活動を創っていきたい。
- ・集いの場のあり方、続かない変化があるのが、地域の生活であり、社会である。
- ・中核となる人をどう見つけるかがポイントとなり、かつそれを支援する社協の役割。

### 3. 今後の地域での福祉活動について参加したいテーマ・内容

- ・認知症者への対応について→地域のつながりの関係での具体的事例
- ・地区高齢者の交流・生活支援促進
- ・独り暮らしの方達の考え方や、細かい要望など、公的機関の接点など、深く掘り下げて学習したい。人は皆自立して生きたいという気持ちは強いと思う。人間の尊厳につなげた支援をどうするか学びたい。
- ・「やすらぎステーション」について、いろいろな活動内容等を知りたい。送迎、内容、費用などなど・・・特に「自主」になると毎回大変になる。どうしているか。あまり、地区社協と市社協では相違があるので、なるべく地域にあったものが良い。
- ・高齢者は参加する団体として社協、老人会、サロンなどとの繋がり。
- ・赤ちゃん。お年寄りだけでなく、学童期の子どもたちへの支援。学習塾へ行くことができない子、親が仕事で一人で夕食をとっている子 etc. 子どもたちを支える仕組み。
- ・担い手の発掘について。
- ・新しくスポーツ吹矢、グラウンドゴルフ、ペタンクなど皆で競い合えるもの。
- ・高齢者見守り活動の組織づくり。地域内住人の困りごとを解決する組織づくり。
- ・三世代交流、買い物支援、移動事業。
- ・福祉施設の方の話。
- ・エンディングノートのこと。
- ・地域の施設との交流を行いたい。担い手の広げ方を研究会方式でやれるとよい。
- ・ボランティア活動者を集める方法。

- 都市部・郊外・地方での福祉活動の比較。
- 地域とのつながりの持ち方、きっかけ。若い世代との交流の仕方。
- ボランティアの有償化。
- ボラセンコーディネーター向けの対人援助の研修。ボラセンは断ることが多い。対人コミュニケーションが難しい方や、思い込み、独りよがりのコーディネーターがいるので。
- ボランティアの後継者不足の問題があるので、60代、70代の地域の方々に地域づくり、地域活動に参画していただいた地域がありましたら、活動報告して頂きたいです。
- コーディネーター研修。ボランティア活動を実践するためのスキルアップを図りたい。
- 認知症。障がいのある方。元気ない高齢者を対象としたサロンに協力しているため、サロンについての話を聞きたい。
- 近隣の住民との同好会を作りたい。自分の家を開放してもいいと思う。(将棋・囲碁)
- 地域活動の課題について議論する場が欲しい。
- 地域ニーズを掘り起こして対応できたら良いと思う。できる事を提供するだけでなく、ニーズは何？これらの発表を期待していた。
- 介護保険でできない部分(受診同行、送迎等)に関して困ることが多いので、地域と病院との関わり等あれば知りたい。(院内ボランティアの有無は病院により異なる)
- 地域のネットワーク形成やサロン等のグループ立上げについて。
- 外出困難ケース(足の問題)、認知症の方の集いの場(場所の問題)、個別課題から地域課題に挙げ、どうやって巻き込んでいくか。
- 取組みが活発になると不安も増す。取組み事例は定期的に発表する場を作ってはどうか。
- 老老介護や独り暮らしの人に対するボランティアのきっかけ。
- 30~50代の子を持つ親がどのように担い手になり得るかをテーマにしていきたい。
- 人の手が有る(退職や子育て後)人たちがいろいろな面で力を出せたらと思う。
- 藤野の参加者の交通の便。キーマンの選出の難しさ。